

## 成果の説明書

(氏名)増田 正	(学部)地域政策
<p>1 重要事項</p> <p>①研究</p> <p>・研究課題「地方議会における議員と会派の政策志向に関する内容分析」(2019年度～2022年度、研究代表者増田正)が科研費(基盤C)に採択された。本年度は研究の初年度にあたるため、予備的仮説の検証として、増田正・爲我井慎之介「地方議会の「会派」は政策集団であるか—計量テキスト分析による予備的研究」(『地域政策研究』第22巻第2号 2019.2, pp.85-100)を共同執筆(責任著者増田)した。これにより、新しい研究課題(4年間)のスタートアップを図ることができた。</p> <p>他に共著論文として、①増田・爲我井「主権者教育の方法と実践」(『地域政策研究』第22巻第4号)、②爲我井・増田「我が国地方議会の改革に向けた視座—議員定数と議員報酬から見た四つの議会像」(『地域政策研究』第22巻第3号 2020.2, pp.49-66)を共同執筆し、そのうち①は責任著者を務めた。</p> <p>②教育</p> <p>・TCUE投票ファクトリーの活動を継続的に展開し、2019年11月3日(土)には三扇祭での模擬投票(投票総数233票)を実施した。11月27日には、学生8人が若者リーダーフォーラム(前橋市)に参加し、関東甲信越静岡ブロック内の若者たちとの勉強・交流を深めた。同フォーラムでは、主催者からの依頼により「若者に必要な政治的リテラシー」の講演を行った。</p> <p>・2020年2月27日(木)、当ゼミの2年生・3年生14人(登録15人)を群馬県議会に引率し、3年連続で「ぐんまシチズンシップアカデミー」に参加させることができた。参加した学生からは、実際の政治家と直接突っ込んだ意見交換ができ、構内期日前投票所の設置についての有用なアドバイスをもらえた等の肯定的な感想が得られた。文字通りの教育効果の高い生きた教材となったものと考えている。</p> <p>・前期は学部3コマ+大学院1コマ(博士1)、後期は学部5コマ+大学院3コマ(修士2・博士1)の合計8コマを担当した。後期は学内最多コマ数であろう。学生の履修機会を優先させ、個人の都合ではなく学部・研究科にとって望ましい時間割編成に積極的に協力している。</p> <p>③社会貢献</p> <p>・高崎市男女共同参画審議会会長(7年目)。</p> <p>・主権者教育アドバイザー(総務省)(2017～)</p> <p>2019年6月26日(水)、主権者教育アドバイザー派遣スキームに従い、先方からのリクエストにより、岩瀬日大高等学校(茨城県桜川市)にて、全校生徒を対象に「若者と選挙:TCUE投票ファクトリーの活動を中心に」との講演を行った。実施報告は、「主権者教育だより」vol.25に掲載され、全国の関係者に配信された。</p> <p>2020年2月12日(水)、長野県明るい選挙推進講座にて「投票率低下は誰のせいなのか～明るい選挙推進運動の役割」を講演した。質疑応答にも参加した。(聴衆約500人)</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>・2013年4月以来、地域政策研究科長として継続的に研究科のかじ取りを担ってきた。結果として、中長期的に全体像を俯瞰することが可能となり、研究科の運営に対して、積極的にリーダーシップを発揮できている。例えば、他大学では例を見ない、常設的な</p>	

入試相談業務（研究科長入試相談）などを通じて、受験生の掘り起こしに積極的に取り組んでいるほか、早期履修生制度、長期履修生制度、カリキュラム改革、時間割編成の柔軟化、入試改革など多面的な制度改革を実現した。今年度には、後期課程への顕著な出願者増が見られた。

### 3 次年度以降の計画・抱負

・本学大学院では長期的な欠員が恒常化している。本年度 2 月実施の大学院 FD などを通じて、抜本的な組織再編の必要性を強く認識するに至った。大学院改革の総仕上げとして、大学、学部、経済・経営研究科と連携して、問題解決に向けて建設的に取り組んでいきたい。